

天敵製剤と土着天敵を組み合わせた なしのハダニ類防除効果について

要約

ミヤコカブリダニの放飼と、その後の天敵保護を考慮した選択性殺虫剤の使用により、殺ダニ剤の散布回数を削減でき、効果的にハダニ類の防除を行うことができた。供試区に栽植したバジルの天敵温存・増殖効果については実証出来なかった。

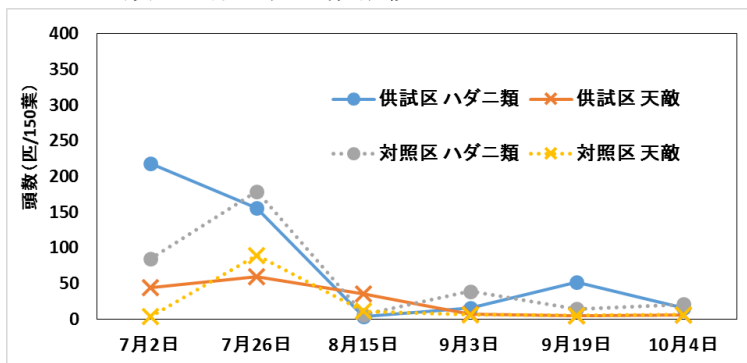
○ 展示のねらい

なしにおけるハダニ類の土着天敵利用技術は、防除効果の安定性や薬剤選択の煩雑さ等の課題から普及が進んでいない。そこで、近年登録拡大された天敵製剤と組み合わせたハダニ類の防除効果を検証し、産地への普及を図ることを目的に試験を行った。

試験の概要：(1)ミヤコカブリダニの放飼…ハダニ類に対する天敵農薬「スパイカルプラス」を 100 パック/10a を放飼。(2)天敵温存植物の栽植…ハダニ類の天敵を温存・増殖する植物として、バジルの苗を株元に栽植。

○ 主な成果

▽ハダニ類と天敵の発生数推移



天敵製剤を使用しない対照区では、ハダニ類の発生が多かったため、6月と7月に計6回殺ダニ剤を散布した。供試区では、ミヤコカブリダニの放飼により夏期のハダニ類の発生を最小限に抑えることができ、殺ダニ剤の散布回数は対照区の半数以下となった。

▽顕微鏡検査による天敵の同定調査結果

同定したカブリダニ類	供試区(匹)	(%)
ミヤコカブリダニ	4	19.0
土着天敵	ニセラーゴカブリダニ	12
	トウヨウカブリダニ	5

また、ミヤコカブリダニ放飼 2 ヶ月後に採取した天敵のサンプルを同定した結果、約 8 割が土着

天敵であった。ハダニ類の防除において、土着天敵が大きく寄与していることがわかった。

○ 今後の方向性

本試験でのハダニ類に対する防除コストは、供試区で対照区の約 2 倍であったが、天敵を適期に放飼し、天敵に影響の少ない殺虫剤を選択し使用することで、導入コストに見合う効果が得られることがわかった。今後は、導入効果が最大限発揮できるよう導入にあたってのポイント等も含め生産者への情報提供を行い、産地への普及を図りたい。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：栃木市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315